

# 中津智史

NAKATSU SATOSHI

工学部情報系学科2年

研究、スポーツ、趣味、特技...  
学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。  
そんなきらりと光る学生を、  
同じ学生の目線から紹介する。



## 「強化」と「楽しさ」両立を目指す 囲碁部支える優しき部長

「良くない状況から、どのように逆転をはかるかが囲碁の醍醐味」と話すのは岡山大学囲碁部部長の中津智史さん（工学部2年）。

2013年12月23日から26日に、大学の囲碁日本一を決める団体戦、第57回全日本大学囲碁選手権が東京都の日本棋院で行われ、岡山大学囲碁部は見事3位に入賞した。同大会は地区予選を勝ち抜いた8大学が出場し、1チーム5人の選手がリーグ戦で優勝を争うもの。岡山大学は中四国地方の代表として出場した。

## 全日本大学囲碁選手権3位 岡山大学囲碁部

部員数は1年生6人、2年生8人、3年生6人、4年生10人、5年生以上（院生含む）10人の、計40人。普段は文化系クラブ棟3階にある部室で練習し、夏には合宿も行っている。第57回全日本大学囲碁選手権で4年連続3位に入賞した。



中津さんは「自分は、対局の序盤は負けていたが、後半で逆転して勝った。岡大の3位入賞がかかった対局で、大会の最終局でもあったから緊張した」と選手権を振り返る。

中津さんは小学2・3年生の時に、祖父に勧められたことがきっかけで囲碁を始め、その後、強いアマチュアの先生がいる地元（徳島県）の子供囲碁教室に通い、次第に囲碁にのめり込むようになった。中学校・高校時代は独学で練習していたという

中津さん。しかし、県大会でたびたび優勝し、全国大会に出場するなどして実力を着々とつけていった。

岡山大学囲碁部に入部したのは、他大学の囲碁部の知り合いから「岡大の囲碁部は強いから入部したらどうか」と勧められたのがきっかけだった。

囲碁部での練習は、先生に教えてもらうのではなく、部員同士で対戦して練習するのが基本。特に「実力者ぞろいの先輩たち」（中津さん）と対局を重ねて試合勘を磨きながら、

新聞などに載っているプロの棋譜を見て、打ち方を学ぶこともしているという。



▲練習風景

## 実力者の部員同士 対局で試合勘磨く

57回全日本大学囲碁選手権では、中津さんは「冷静さを捨て、がむしゃらに行った」結果、後半で見事逆転。岡山大学の3位入賞につなげた。

しかし、「今回の3位は先輩のおかげ。今後先輩は就活などで忙しくなり、一緒に練習してもらえない時間が少なくなるから、自分がその分勉強して先輩に強くなったと言われたい」と中津さんは話す。

そんな中津さんが、囲碁をやっ



▲試合風景

「囲碁に大切なことは自身が冷静さを保つこと。その上で相手を焦らせる戦略を考えることが必要」と話す中津さん。囲碁を始めてから、日頃から、物事を落ち着いてよく考えることを意識するようになったという。

しかし一方で、冷静さを捨てて成功することもあった。先の第3勝2敗だったので嬉しかった。全国大会出場は惜しくも逃したが、強い相手に勝てたことで自信がついた。

最後に、「部が強くなることは大事だけど、かたくなりすぎず、みんなが楽しく囲碁ができるように心がけている。練習以外にもゲームをするなど、部内は和気あいあいとしている。大学から始める人や女子部員もいて、初心者も大歓迎」と話した中津さん。やわらかな口調で囲碁への思いを語る一方、部を束ねる長として、自らの腕の向上に加え、囲碁部の発展を視野に入れていた。



インタビュー  
岡山大学学生広報スタッフ  
文学部人文学科2年  
鹿森 沙恵香